

対談：居場所としての児童養護施設と学習支援室の意義

—フィリピンと日本から子どもたちの生活と成長を考える—

この度、言語文化教育研究学会では特別企画として対談を開催いたします。フィリピンと日本で子どもたちの居場所を創る活動を行っているお二人が、それぞれどのような思いを胸に居場所創りに関わってきたか、そして、その難しさや課題とは何かについて対談を行います。子どもたちの教育に関心を持つ方々の来場をお待ちしています。

澤村信哉氏

児童養護施設 ハウス・オブ・ジョイ

運営責任者

(ダバオ・オリエンタル在住)



木村博之氏

横浜市国際交流協会

国際交流ラウンジ担当課長

(横浜市在住)



司会：古屋憲章（言語文化教育研究学会事務局長、早稲田大学）

日時：10月24日（土） 14：00-16：00

場所：早稲田大学 22号館 7階 715教室

参加無料・事前予約不要

要旨ほか詳細：<http://alce.jp/#spec15b>

お問い合わせ：contact@alce.jp（言語文化教育研究学会事務局）

対談者略歴：

澤村信哉（さわむら しんや）氏（児童養護施設ハウス・オブ・ジョイ、運営責任者）フィリピン在住

1976年北海道生まれ。千葉育ち。横浜国立大学教育学部卒。専門は年少者向けの日本語教育。卒業後はフィリピンの小学校、大学で日本語教師、日本語教育コンサルタントとして働き、教科書作成や教員養成にも携わる（7年）。その後、ブルガリアの小学校でも日本語教師として働く（2年）。2008年、ハウス・オブ・ジョイ創設者の烏山氏が倒れたことを機に、誘いを受けてフィリピンに戻り、以後、HOJの運営スタッフとして働く。HPやブログの開設、アフェリエイトやクリック募金、クラウドファンディングといったITを活用した運営費確保や、滞在者の受け入れ、日本の支援者向けの広報活動などを主に担当する。特技は20種類以上の楽器演奏と、自身の収入源でもある似顔絵描き。

主な講演内容：

「海外の児童養護施設の現場から」フィリピン、ミンダナオ島の孤児院「ハウス・オブ・ジョイ」の概要、そこにいる子どもたちの状況、現在行っているプロジェクトなどを紹介し、そこで働くスタッフとしての思いと、なぜそこで働くのかを、自身の経験を元に語る。

木村博之（きむら ひろゆき）氏（横浜市国際交流協会・国際交流ラウンジ担当課長）横浜市在住

1959年横浜生まれ。学習院大学法学部卒業。横浜市国際交流協会勤務。80～90年代は「アジア地域経済交流横浜会議」「横浜アジアフェスティバル」「青少年国際交流セミナー」「横浜フィリピン映画祭」「横浜ベトナム映画祭」「横浜インドネシア映画祭」等の企画に関わり、アジア各国との交流事業を担当。2000年以降は、横浜在住の外国人を対象とした「多言語相談」「日本語学習」「外国にルーツをもつ子どもの居場所/学習支援」等を担当している。

【公益財団法人 横浜市国際交流協会】

1981年に設立された横浜市の外郭団体。2000年に横浜市海外交流協会から横浜市国際交流協会に名称変更。設立当初は横浜市の海外8つの姉妹都市との交流事業がメインだったが、在住外国人の増加に伴い地域に住む外国人を対象にした事業にシフト。多言語相談、多言語情報誌の発行、外国にルーツをもつ子どもの学習支援、日本語教室の運営、通訳派遣他の事業を行っている。

みなとみらい本部の他に「中区」「南区」「鶴見区」の3区の国際交流ラウンジ、「横浜市国際学生会館（留学生会館）」の管理、運営を行っている。

司会：古屋憲章（ふるや のりあき）（言語文化教育研究学会事務局長、早稲田大学）

早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程修了。修士（日本語教育学）。日本語学校講師、早稲田大学日本語教育研究センター常勤インストラクター等を経て、2014年より早稲田大学日本語教育研究センター助手、武蔵野美術大学非常勤講師。研究テーマは、日本語教育研究における「実践研究」の研究、言語学習環境デザイン。詳しい研究業績等に関しては、こちら→<http://www.gsjal.jp/tateoka/furuya.html> を参照。

要旨ほか詳細：<http://alce.jp/#spec15b> お問い合わせ：contact@alce.jp（言語文化教育研究学会事務局）